






日本造園学会

熊本地震復興支援調査委員会の取り組みと成果

視点：公園緑地、農業支援、集落景観、自然公園、ランドスケープ遺産

部会	取り組み	成果	提言						
公園緑地	地震発生後の都市公園の利用実態調査	<p>調査成果を取りまとめて、各管理団体にフィードバックするとともに、現地でのフォーラム等で広く公表し、継続的な対話の場を設けた。</p> <p>国土交通省国土技術政策総合研究所「防災公園計画・設計ガイドライン」改訂の資料他として調査成果を活用した。</p> <table border="1" data-bbox="638 515 957 739"> <tr> <td>公園の意義と問題点</td> <td>防災施設と公園内集会所</td> <td>災害対応の機能向上に向けて</td> </tr> <tr> <td> 留意 高い利用空間に原も安心感に高い、車の避難場所 遊具なしや物置無防の場所 利用時間、水利用可 留意点 利用の不具合と必要性 給水設備の不具合と必要性 遊内施設の必要性 利用時間の短縮 雨対策、夏と対策 駐車場の長消化 他 </td> <td> 留意 遊具や樹木種が立つ 遊内施設は高齢者に良い 使いやすさ、憩心地が良い 高さや高さのしける 留意点 遊具の不具合と必要性 遊具管理の責任が不明確 使用方法がわからず 遊内施設の必要性 遊具の不具合 閉鎖の対応や後整理 他 </td> <td> 留意 遊具や樹木種を多く 給水施設（井戸、高水圧等） 遊具の配置や遊具 遊内施設、入口の拡充 留意点 利用や遊具管理の留意 災害対応マニュアルづくり 防災訓練の改善 防災施設整備の行政支援 日常的な公園管理の継続 自治会等の組織体制の維持 監視のつきあいの継続 </td> </tr> </table>	公園の意義と問題点	防災施設と公園内集会所	災害対応の機能向上に向けて	留意 高い利用空間に原も安心感に高い、車の避難場所 遊具なしや物置無防の場所 利用時間、水利用可 留意点 利用の不具合と必要性 給水設備の不具合と必要性 遊内施設の必要性 利用時間の短縮 雨対策、夏と対策 駐車場の長消化 他	留意 遊具や樹木種が立つ 遊内施設は高齢者に良い 使いやすさ、憩心地が良い 高さや高さのしける 留意点 遊具の不具合と必要性 遊具管理の責任が不明確 使用方法がわからず 遊内施設の必要性 遊具の不具合 閉鎖の対応や後整理 他	留意 遊具や樹木種を多く 給水施設（井戸、高水圧等） 遊具の配置や遊具 遊内施設、入口の拡充 留意点 利用や遊具管理の留意 災害対応マニュアルづくり 防災訓練の改善 防災施設整備の行政支援 日常的な公園管理の継続 自治会等の組織体制の維持 監視のつきあいの継続	<p>避難行動における自助・共助については、日常的な公園管理や地域組織の体制が重要であることから、これらの維持・活性化が求められる。</p> <p>車での避難行動も含めて、防災機能の基盤となるオープンスペースの確保が不可欠である。</p> 
公園の意義と問題点	防災施設と公園内集会所	災害対応の機能向上に向けて							
留意 高い利用空間に原も安心感に高い、車の避難場所 遊具なしや物置無防の場所 利用時間、水利用可 留意点 利用の不具合と必要性 給水設備の不具合と必要性 遊内施設の必要性 利用時間の短縮 雨対策、夏と対策 駐車場の長消化 他	留意 遊具や樹木種が立つ 遊内施設は高齢者に良い 使いやすさ、憩心地が良い 高さや高さのしける 留意点 遊具の不具合と必要性 遊具管理の責任が不明確 使用方法がわからず 遊内施設の必要性 遊具の不具合 閉鎖の対応や後整理 他	留意 遊具や樹木種を多く 給水施設（井戸、高水圧等） 遊具の配置や遊具 遊内施設、入口の拡充 留意点 利用や遊具管理の留意 災害対応マニュアルづくり 防災訓練の改善 防災施設整備の行政支援 日常的な公園管理の継続 自治会等の組織体制の維持 監視のつきあいの継続							
農業支援	農業支援・農地等復旧ボランティアの普及・啓発、支援活動	<p>平成24年7月九州北部豪雨における農ボラ活動の展開を調査し手引書を公開し、熊本地震での取り組みを支援。</p> <p>・西原村農業復興ボランティアセンター、山都町棚田復興プロジェクト</p> <p>その後、平成29年7月九州北部豪雨への展開に繋がった。</p> <p>・福岡県：農林漁業再生ボランティア活動支援事業</p> <p>・JA筑前あさくら農業ボランティアセンター設置、情報共有会議実施</p>	<p>農ボラの認識は低い状況。実装には、未だ、研究機関やNPOによる被災自治体、行政区への強いアドバイス活動、実地のイニシアチブが必要である。</p> <p>理解ある人材が全国的に不足しており、国による支援制度の検討等が必要。</p> 						

部会	取り組み	成果	提言
集落景観	地震発生後の集落景観の定点観測を継続して実施	<p>定点観測は、記録という意味だけでなく、住民をはじめ多様な主体が復興の過程の時々で、劇的に変化する集落景観を認識し、確認することができるツールであることが明らかとなった。</p> <p>調査成果を広く知ってもらうために、「ランドスケープ九州沖縄 別冊：熊本地震」を刊行した。</p>	<p>住民をはじめとする多様な主体によるまちづくりを進めるためのツールとして、地震発生後の集落景観の変化を共有することが有効である。</p> 
自然公園	阿蘇くじゅう国立公園・阿蘇地域での防災教育プログラムの開発	<p>2017年12月11日：阿蘇市の小学5年生・計60名に「阿蘇の草原・火山・水から、これからの阿蘇の暮らしスタイル(防災)考えよう」を実施した。</p> <p>これを通して、子ども達は地域の伝承や、自然と共生してきた暮らしの知恵に関心を持つことが確認できた。</p>	<p>熊本県教育委員会へのヒアリング調査によると、阿蘇地域で防災教育を実施している小中学校はまだ数が少なく、防災教育の普及啓発が必要である。</p> 
ランドスケープ遺産	写真アーカイブ・熊本のランドスケープ遺産物件調査	<p>ランドスケープ遺産インベントリ登録活動は熊本地震のような災害時にその価値を発揮することが確認できた。調査成果を広く知ってもらうために、「ランドスケープ九州沖縄 別冊：熊本地震」を刊行した。</p> 	<p>ランドスケープ遺産インベントリ登録活動は熊本地震のような災害時にその価値を発揮する。インベントリ化は地味な作業であるが、確実に継続し続ける事が大切である。</p>